

食品安全情報（化学物質） No. 1/ 2021（2021. 01. 06）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

[【WHO】](#)

1. WHO 食品添加物シリーズ 71-S2：ピロリジジナルカロイド

[【FAO】](#)

1. Codex

[【EC】](#)

1. 食品表示情報システム
2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

[【EFSA】](#)

1. 「食品と飼料の安全性、植物・動物の健康、栄養品質の新興リスクの推進力としての気候変動」に関する説明会
2. 農薬関連
3. 飼料添加物関連

[【FSA】](#)

1. 食品サンプリングの原則とアプローチの研究
2. プラスチック製食品包装の代替品の販売と安全性分析
3. 更新情報（EU 離脱に関連して）
4. ウェールズの食品法実施規範、食品法実施ガイダンス及び実施体系のレビュー
5. リコール情報

[【FSS】](#)

1. FSS はスコットランドの食事摂取に関する報告書を発表

[【DEFRA】](#)

1. ガイダンス

[【DHSC】](#)

1. 脂肪、砂糖、塩の多い（HFSS）製品の広報宣伝制限：執行
2. グレート・ブリテン栄養及び健康強調表示（NHC）登録一覧

[【ASA】](#)

1. ASA 裁定
2. 助言

[【RIVM】](#)

1. CSOIL 2020：汚染土壌を介したヒト健康リスク評価のための暴露モデル

[【FSAI】](#)

1. リコール情報

[【FDA】](#)

1. アレルゲン未表示によるリコールを繰り返しているホールフーズ・マーケットに警告
2. ある種の糖の栄養表示に関する情報を募集しアルロースの最終ガイダンスを発表
3. フレンチドレッシングの同定基準取り下げを提案
4. 食料生産動物用の抗菌剤の販売又は流通に関する年次概要報告書 2019 を発表
5. トランプ政権は食品ロスと食品廃棄削減の取り組みの継続を先導する
6. 有害な表示されない成分の可能性があるため Green Gorilla Root Juice を避けるよう消費者に助言

7. 違法に CBD 製品を販売する企業に警告する
8. 香料又はスパイスとして加えられたゴマの自主的開示に関する企業向けガイダンス案を発表
9. 2022 年会計年度用の VQIP 申請ポータルを開始する
10. Midwestern Pet Foods はアフラトキシンによる健康リスクのためペットフードを自主的リコール
11. 消費者情報：オンラインや店舗で販売される減量、男性用精力剤及びその他の製品は危険かもしれない
12. 警告文書

【CDC】

1. 有害藻類ブルームとそれに関連したヒトと動物の病気に関するサーベイランス—ワンヘルス有害藻類ブルームシステム、米国、2016-2018

【USDA】

1. Perdue 長官が農業動物バイオテクノロジー規制枠組みを USDA に移す画期的提案を発表
2. 遺伝子工学で開発された収量の多い除草剤耐性トウモロコシ品種の規制解除を発表
3. 食品安全と栄養の革新のための USDA 横断的関係の強化

【TGA】

1. ウェビナープレゼン資料：特定のスポーツ用サプリメントが医薬品であるとするセクション 7 宣言について
2. リコール情報

【NSW】

1. 年次食品検査報告 2019-2020

【香港政府ニュース】

1. 包装済みナツメヤシのサンプルに基準値超過の保存料が検出され、食品表示法違反
2. 違反情報

【MFDS】

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. 統合食品安全情報網、請願と行政が容易になる
3. 泡除去用の食品添加物をうつ病治療剤と偽って販売した訪問販売業者を摘発
4. 修学能力試験マーケティング・・・「記憶力改善、疲労回復など」虚偽・誇大広告摘発
5. 個別認定型原料規制改善・・・業界製品開発支援
6. 安息香酸、20 ppm まで天然由来と認定
7. ハム、ベーコン製品 HACCP 管理強化される！
8. 新しい日常、家庭簡便食と健康の動向
9. ピザなどオンライン注文時、栄養成分情報を確認して下さい！
10. 今年最高の国民関心情報、飲食店生活防疫・アイテム製造報告！
11. 糖尿病患者でも心配せず食べることができる食事製品が出ます
12. 食品安全国公共情報で人工知能(AI)がメニュー作る
13. 製造段階の卵検査の結果、不適合卵回収・廃棄
14. 海外個人輸入物品に関する国民安全・健康リスク要因を最小化する！
15. 無申告食品用器具の輸入・販売 16 業者摘発・送致
16. 残留農薬基準を超過した輸入農産物の回収措置

【その他】

- ProMED-mail
- EurekAlert

● 世界保健機関 (WHO : World Health Organization) <http://www.who.int/en/>

1. WHO 食品添加物シリーズ 71-S2 : ピロリジジンアルカロイド

Safety evaluation of certain food additives and contaminants: supplement 2:
pyrrolizidine alkaloids, prepared by the eightieth meeting of the Joint FAO/WHO
Expert Committee on Food Additives (JECFA)

WHO Food additives series: 71-S2

27 November 2020

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240012677>

2015年6月に開催された第80回FAO/WHO合同食品添加物委員会(JECFA)による食品中のピロリジジンアルカロイド(PAs)に関するリスク評価の報告書。評価結果の概要はWHO食品添加物シリーズ71に記されていたが、別途、詳細が追補2(414頁)として公表された。

PAsは、およそ6000種類の植物によって様々なタイプが産生される。現在では600種以上のPAsが知られており、新しいPAも次々と同定されている。PAsには、ピロリジジン骨格内に二重結合を持たない飽和型と、1位と2位の間に二重結合を持つ1,2-不飽和型及びそのN-オキシド体が存在する。主なPAsは1,2-不飽和型である。

飽和型PAsによるヒトへの毒性は排除できないが、評価するには試験データが不十分であった。そのためJECFAは、1,2-不飽和PAs(N-オキシド体含む)についてのみ評価を実施した。

動物試験によると、ラットでは、1,2-不飽和PAsの短期及び長期暴露による最も感受性が高い臓器は肝臓であった。試験に使用された1,2-不飽和PAsはDNA付加体を形成し、変異原性であった。多くの1,2-不飽和PAsに齧歯類での発がん性(主に肝臓)が見られた。JECFAは、遺伝毒性があることから、健康影響に基づくガイダンス値(例:TDI)の導出は適していないと考え、リデリンに関する米国国家毒性プログラム(NTP)の発がん性試験(雌のラットの肝血管肉腫)から求めたBMDL₁₀182µg/kg体重/日を出発点とし、これと成人及び子供におけるハチミツと茶を介した暴露量(表1)をもとに、暴露マージン(MOE)を算出した(表2)。成人・子供の両方でハチミツと茶の高摂取群(大人に関しては茶の平均摂取群も)では健康への懸念があったとした。ただし、これらは汚染実態データが限られており、保守的なリスク推定の結果である。さらに、ハチミツと茶による急性食事暴露に関する推定では、懸念は示されなかった。

JECFAは、PAsについては、毒性学及び疫学的な知見、分析法、各種食品の汚染実態など全体的にデータが不足しており、より確実な評価を行うには、それらのデータを得ることを推奨している。

表 1. 1.2-不飽和 PAs の暴露量の範囲 (μ g/kg 体重/日)

	平均摂取群	高摂取群 (95th)
ハチミツ		
成人	0.002–0.05	0.20–0.28
子供	0.001–0.14	0.35–1.58
茶		
成人	0.015–0.13	0.09–0.47*
子供	0.026–0.055	0.14–0.23

*乾燥重量として。変換係数は浸出液 100 mL を乾燥茶 1 g とする

表 2. 1.2-不飽和 PAs に関する暴露マージン

	平均摂取群		高摂取群 (95th)	
	LLB	HUB	LLB	HUB
ハチミツ				
成人	9 000 000	46 000	36 000	6 900
子供	18 000 000	14 000	30 000	2 200
茶				
成人	140 000	1 400	18 000	700
子供	36 000	10 000	6 700	2 400

HUB: highest upper bound; LLB: lowest lower bound

- 国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)

<http://www.fao.org/>

1. Codex

- 次期の地域調整国がコーデックス作業の秘訣を学ぶ

Incoming regional coordinators learn the key to Codex work

15/12/2020

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1364819/>

コーデックス 6 地域を代表する次期地域調整国のための、コーデックス事務局が主催する 2 回目のオンラインウェビナーにおける議論の焦点は、執行委員会 (CCEXEC) における彼らの役割についてであった。次回の執行委員会は 2021 年 1 月 13~21 日にバーチャル形式での開催を予定している。執行委員会は、地理的に選出された 7 人のメンバーと議長、3 名の副議長とともに 6 つの地域調整国で構成されており、規格策定の保全と、戦略的部門

として、またその他の特別課題へのより広範な委員会の橋渡しとしての役割を担っている。

* CCEXEC80

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/meetings/detail/en/?meeting=CCEXEC&session=80>

● Tom Heilandt 事務局長が 2020 年を振り返る

Codex Secretary Tom Heilandt looks back on 2020

01/01/2021

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1366673/>

2020 年、何もかもが変わった！コーデックスやその他の会合も、物理的会合が実質的になくなったも同然であった。私がコーデックスメンバーに最後に会ったのは 2 月の CCEXEC78 までさかのぼる。全てが今までと違ったのに、それでも多くのことを前進させたというのは、驚くべきことである。2020 年のハイライトは明らかに「総会」である。Zoom で開催して全ての規格が採択された。130 ヶ国以上から約千人が参加し、閉会の時には全員が消音を解除して「バイバイ」と言った。バーチャルだとしても、素晴らしい雰囲気だった。

オンライン作業はどんなものだったか？

時間が限られており、そのため、とても詳細に準備して脚本も作る必要があった。バーチャル会合では脚本を読み、多かれ少なかれ脚本に従い、会話も少なかった。それが全てだった。

ハイブリッド会合への未来をどのように見ている？

そのような未来は確実にあるだろうし、選ぶべきだとも思うが、技術的に準備万端だとは思っていない。事務局メンバーはヘッドテーブルで事務局としての作業をすることになるが、技術的な課題がある。バーチャル参加者は、休憩中や会合後のいくつかのサイドミーティングやネットワークから除外されてしまう。そのため、ハイブリッド参加者はある意味「セカンドクラス」であり、彼らが、当局から資金節約のためにバーチャル参加を強制されるのは避けたい。しかし、国によっては優先順位をつける可能性があり、我々は要求された場合に備えるためにハイブリッド参加のための技術を準備して可能な限り効率的にするだろう。

コーデックスは COVID-19 の試練とどのように向かい合ったと思う？

たとえ会合を開催できなくても、我々は歩みを止めず、それが重要なことであった。全ての電子作業部会も進行している。作業は継続され、次の公式会合の時には議論することが沢山あるだろう。これは挑戦であるが、良いことである。我々は 1 年全てを失ったわけではない。

2021 年の見通しは？

11 月に計画されている総会の物理的会合の開催を望んでいるが、その頃にどのような状

況なのか、移動できるのかどうかは全く分からない。私には、我々が全ての作業計画を実行するであろうということはわかる。計画された全ての部会が開催されるだろう。夏まではバーチャルとし、それは多くの部会にとって初めての経験となるだろう。その後のことは、私にも予測できない。

コーデックスメンバー全体には、2020年と同じように2021年も支援していただきたいと願う。我々が、年末までに全ての部会と総会を開催できるよう最善を尽くし続けよう。もし物理的に開催できたなら、それは正に祝うべきことである。

● 英国の EU 離脱協定がコーデックス規格の価値を認める

Brexit deal recognizes the value of Codex standards

31/12/2020

<http://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1366655/>

2020年12月24日に合意したEU離脱協定について、欧州委員会委員長のUrsula von der Leyen氏は「公平でバランスのとれた」ものだと説明した。

協定の第3条では、コーデックス委員会を含む国際組織における「協力の強化」の目標とともにSPS措置への協調を記している。認証された移動、つまり国境を越えた物の移動について特別に言及し、電子的認証と貿易促進のためのその他の技術の導入促進の両方に取り組むこととされている。さらに、抗菌剤耐性に取り組み、対話に関する承認された枠組みの中で、コーデックスの「抗菌剤耐性の最小化及び抑制のための実施規範(CAC/RCP 61-2005)」を含む国際的な勧告の実行に協力し続けることにも合意している。

● 欧州委員会 (EC : Food Safety: from the Farm to the Fork)

https://ec.europa.eu/food/safety_en

1. 食品表示情報システム

Food Labelling Information System

https://ec.europa.eu/food/safety/labelling_nutrition/labelling_legislation_en/food_labelling_information_system/start/select-language

言語、食品カテゴリーを選択すると、EUの法規に従って何の表示が必要なのかが表示されるシステム。

2. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

Rapid Alert System for Food and Feed (RASFF) Portal - online searchable database

http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm

2020 年第 52 週～第 53 週の主な通知内容（ポータルデータベースから抽出）

* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過（例外あり）

* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

トルコ産英国経由粉末クミンのピロリジジンアルカロイド(9948 µg/kg)、中国産イタリアで包装されたグルコン酸マグネシウムと不正表示されたグルコン酸カリウム、ドイツ産粉末クミンのピロリジジンアルカロイド(5522 µg/kg)、トルコ産英国で製造されフランスで包装された粉末クミンのピロリジジンアルカロイド(20377; 5786 µg/kg)、スペイン産生乳チーズに抗生物質(βラクタム系)の存在、オランダ産未承認新規食品ビンロウの実、イタリア産有機アーモンドのアフラトキシン(B1 = 31; Tot. = 34 µg/kg)、レバノン産ドイツ経由酢漬けのカブの未承認着色料ローダミン B (> 2000 µg/kg)、スイス産オランダ経由フードサプリメントのベンゾ(a)ピレン(21.1 µg/kg)、スペイン産有機乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 17.4; Tot. = 24.5 µg/kg)、スペイン産真空パック解凍メカジキの水銀(2.5 mg/kg)、産出国不明ポーランドで包装されたポップコーンのデオキシニバレノール(DON) (2174 µg/kg)、中国産スロバキア経由穴あきスプーンからの一級芳香族アミンの溶出(> 5 mg/kg)、産出国不明デンマーク経由有機リコリスの根の粉末のオクラトキシン A (91 µg/kg)、スペイン産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 81 µg/kg)、カナダ産オランダ経由有機アーモンドバーとクランベリーバーの未承認物質エチレンオキシド(>2.0 µg/kg)、トルコ産炒った塩味スイカの種子のアフラトキシン(B1 = 13.7 mg/kg)及びオクラトキシン A (11.4 mg/kg)、中国産フランス経由穴あきスプーンからの一級芳香族アミンの溶出(0.3 mg/kg)、など。

注意喚起情報 (information for attention)

ルーマニア産液体低温殺菌卵のエンロフロキサシン(4236 µg/kg)未承認、スリランカ産英国経由チルドキハダマグロのヒスタミン(300.7 mg/kg)、トルコ産粉末クミンのアセタミプリド(0.79 mg/kg)・プロピコナゾール(0.19 mg/kg)・チアメトキサム(0.18 mg/kg)・クロチアニジン(0.11 mg/kg)・イミダクロプリド(0.13 mg/kg)・未承認物質クロルピリホス(0.082 mg/kg)・カルベンダジム(0.24 mg/kg)・トリシクラゾール(0.22 mg/kg)、中国産食品酵素の未承認遺伝子組換え(微生物 DNA)、2,4-ジニトロフェノール (DNP)のオンライン販売、トルコ産グレープフルーツの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.10 mg/kg)、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン A(28.8 mg/kg)、インド産茶のクロロタロニル(1.5 mg/kg)、インド産ササゲの未承認物質オメトエート(0.19 mg/kg)及びジメトエート(0.12 mg/kg)、米国産フードサプリメントの未承認市販(医薬品パンクレアチン含有)、トルコ産種なし白ブドウのアセタミプリド(1.1 mg/kg)、ベトナム産冷凍バラクーダの水銀(0.89 mg/kg)、など。

フォローアップ用情報 (information for follow-up)

ベルギー産白ゴマのオランダでの未承認照射、スペイン産白ワイン塩水入り冷凍ザリガニの未承認物質塩素酸塩(1.5 mg/kg)、トルコ産茶の未承認新規食品成分セイヨウイソノキ、ドイツ産乾燥ドッグフードのビタミン D 高含有、スペイン産冷凍シャコの亜硫酸塩高含有(163 mg/kg)、中国産ベルギー経由ステンレス製漉し器からのマンガンの溶出(0.39 mg/100ml)、トルコ産オレンジのブプロフェジン(0.078 mg/kg)及び未承認物質クロルピリホス-メチル(0.092 mg/kg)、クロアチアから発送したエネルギードリンクのプロピレングリコール(E1520) (3247 mg/kg)高含有、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 53; Tot. = 55 µg/kg ; B1 = 17; Tot. = 18 µg/kg ; B1 = 17; Tot. = 22 µg/kg ; B1 = 48; Tot. = 109 µg/kg ; B1 = 51.7; Tot. = 55.2 µg/kg)、米国産ピーナッツのアフラトキシン(B1 = 4.7; Tot. = 5.5 µg/kg)、トルコ産レモンの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.079 mg/kg ; 0.028 mg/kg)、トルコ産炒った殻付きピスタチオのアフラトキシン(B1 = 27.5; Tot. = 29.9 µg/kg ; B1 = 48.3; Tot. = 51 µg/kg)、中国産緑茶のラムダ-シハロトリン(0.08 mg/kg)・未承認物質クロルピリホス(0.03 mg/kg)・トルフェンピラド(0.09 mg/kg)、トルコ産塩水入りブドウの葉のジメトモルフ(0.023 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.726 mg/kg)、米国産トルコから発送したピスタチオ穀粒のアフラトキシン(B1 = 38.8; Tot. = 44 µg/kg)、乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 12.8; Tot. = 24.4 µg/kg)、アンゴラ産ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 175; Tot. = 190 µg/kg)、米国産朝食用シリアル着色料タートラジン(E102) (278 mg/kg)・着色料サンセットイエローFCF(E110) (118 mg/kg)・着色料アルラレッド AC(E129) (78 mg/kg)・着色料ブリリアントブルーFCF(E133) (67 mg/kg)高含有、トルコ産生鮮レモンの未承認物質クロルピリホス(0.047 mg/kg)及びクロルピリホス-メチル(0.098 mg/kg)、ペルー産乾燥ペッパーの未承認物質クロルピリホス(0.024 mg/kg)、トルコ産レモンのピリミホス-メチル(0.025 mg/kg)と未承認物質クロルピリホス-メチル(0.081 mg/kg)及びグレープフルーツのクロルピリホス(0.041 mg/kg)、トルコ産マンダリンのプロクロラズ(0.915 mg/kg)、トルコ産オレンジのプロクロラズ(0.845 mg/kg)、エジプト産有機ピーナッツ穀粒のアフラトキシン(B1 = 54; Tot. = 64 µg/kg)、カメルーン産コーヒー豆の未承認物質クロルピリホス(0.096 mg/kg)、トルコ産生鮮ペッパーのホルメタネート(0.096 mg/kg)、マレーシア産パーム油のグリシジルエステル類(7800 µg/kg)、トルコ産ペッパーのアセタミプリド(0.623 mg/kg)及び未承認物質クロルピリホス-メチル(0.126 mg/kg)、ミャンマー産未承認新規食品ビンロウの実、トルコ産有機乾燥イチジクのアフラトキシン(B1 = 36; Tot. = 90 µg/kg)、トルコ産ペッパーのフロニカミド(0.859 mg/kg)、トルコ産ペッパーのアセタミプリド(0.831 mg/kg)、トルコ産マンダリンの未承認物質クロルピリホス-メチル(0.111 mg/kg)、トルコ産オレンジのプロクロラズ(1.849 mg/kg)及び未承認物質クロルピリホス-メチル(0.067 mg/kg)、など。

注) 2020年9月にEUに輸入されたインド産のゴマ種子からエチレンオキシドが検出され、それを原料にした多くの食品がEU諸国で大規模に検査、回収されている。EUにおいてエチレンオキシドは委員会規則(EU) 2015/868のもと認可取り下げられており、食品への使用が認められていない。

本件に関連した通知(主に警報通知)については、件数が多いため、今号では省略した。

● 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu/>

1. 「食品と飼料の安全性、植物・動物の健康、栄養品質の新興リスクの推進力としての気候変動」に関する説明会

Info session on “Climate change as a driver of emerging risks for food and feed safety, plant, animal health and nutritional quality”

22 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-1993>

最近終了した CLEFSA プロジェクト「食品と飼料の安全性、植物・動物の健康、栄養品質の新興リスクの推進力としての気候変動」の結果を伝えるために、EFSA は 2020 年 10 月 8 日にオンライン説明会を開催した。このプロジェクトでは気候変動と関連する新興リスクの同定、特徴付け、分析のための新しい方法論を開発・テストし、データの少ない環境での作業に関連する不確実性を記述した。このプロジェクトの報告書は 2020 年 6 月 25 日に発表された。このイベントの全体的な目的は、EFSA のパネルと科学委員会のメンバー、欧州委員会の部局、姉妹機関、H2020 プロジェクト、EU 内外の国家機関、関連する専門知識を持つ国際機関、関連する国際プロジェクトやプログラムのコーディネーター、農業従事者、畜産家、一般市民を含む海外の聴衆に CLEFSA 報告書を広め、議論し、関連する活動全体で相乗効果を生む機会を確認することである。CLEFSA 報告書を説明する開会本会議の後に、参加者は以下の分野ごとに相乗効果や他のプロジェクト/活動との相互作用について話し合った。1) 汚染物質、2) 動物の健康、3) ヒトの健康への生物学的ハザード、4) 新たなリスクの特定、特性評価、分析のための方法論。最終本会議では、さらなる行動と協力の可能性が示された。CLEFSA は、極めて不確実性が多い複雑で学際的な問題に対処するために、様々な利害関係者の専門知識をまとめることに成功していると結論された。フォローアップとして、EFSA は、新興リスク同定プロセスの体系的なアプローチの実行における市民、農業従事者、地方当局など幅広い様々な利害関係者の関与や、気候変動に関する研究を広め、優先課題のより詳細なリスクキャラクター化に焦点を当てるために、IPCC などの国際機関との協力の強化に努める必要がある。

* 参考：食品安全情報 (化学物質) No. 14/ 2020 (2020. 07. 08)

【EFSA】食品と飼料の安全性、植物・動物の健康、栄養品質の新興リスクの推進力としての気候変動

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2020/foodinfo202014c.pdf>

2. 農薬関連

- トウモロコシ粒やスイートコーンのビフェントリンの MRL 条項 12 のレビューに従う
確証データの評価および輸入トレランス設定

Evaluation of confirmatory data following the Article 12 MRL review and setting of import tolerances for bifenthrin in maize grain and sweet corn

EFSA Journal 2020;18(12):6361 23 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6361>

妥当性が確認された定量限界(LOQ) 0.01 mg/kg の濃度以下で植物マトリクス及び動物マトリクスのビフェントリン(異性体の合計)の残留物を管理するのに利用可能な執行のための分析法が得られた。EFSA は報告された農業規範によるビフェントリンの使用から生じる残留物の短期及び長期摂取は消費者のリスクになりそうもないと結論した。このリスク評価は、以前 EU の MRLs が設定され、まだリスク評価に含まれている多くの作物の EU 認可の満了に関連する追加の非標準的な不確実性に影響されている。

- 確証データを踏まえたメプチルジノカップの農薬リスク評価に関する加盟国、申請者、EFSA の協議結果

Outcome of the consultation with Member States, the applicant and EFSA on the pesticide risk assessment for meptyldinocap in light of confirmatory data

18 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/supporting/pub/en-1987>

スペインが協議結果をまとめ、EFSA の科学的見解と個別に受け取ったコメントの結論を提示している。

- マンコゼブの農薬リスク評価ピアレビュー

Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance mancozeb

EFSA Journal 2020;18(12):5755 16 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/5755>

情報不足と懸念が確認された。

3. 飼料添加物関連

- 全ての動物用飼料添加物として *Escherichia coli* CGMCC 13325 株を用いて生産した l - スレオニンの安全性と有効性

Safety and efficacy of l - threonine produced using *Escherichia coli*CGMCC 13325 as a

feed additive for all animal species

EFSA Journal 2020;18(12):6332 18 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6332>

- 全ての動物種用飼料添加物として *Corynebacterium glutamicum*KCTC 12307BP株で発酵して生産した1-リジン塩酸塩と濃縮液1-リジン(塩基)の安全性と有効性

Safety and efficacy of l-lysine monohydrochloride and concentrated liquid l-lysine (base) produced by fermentation with *Corynebacterium glutamicum*KCTC 12307BP as feed additives for all animal species

EFSA Journal 2020;18(12):6333 17 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6333>

- 全ての動物種用飼料添加物として *Corynebacterium glutamicum* KCCM 80216株で発酵して生産した1-リジン塩酸塩と濃縮液1-リジン(塩基)の安全性と有効性

Safety and efficacy of l-lysine monohydrochloride and concentrated liquid l-lysine (base) produced by fermentation with *Corynebacterium glutamicum* KCCM 80216 as feed additive for all animal species

EFSA Journal 2020;18(12):6334 16 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6334>

- 全ての動物種用飼料添加物に使用する際の様々な化学物質グループに属する 31 の香料化合物の安全性

Safety of 31 flavouring compounds belonging to different chemical groups when used as feed additives for all animal species

EFSA Journal 2020;18(12):6338 16 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6338>

- ADDCON EUROPE GmbH 由来雌豚用飼料添加物としての二ギ酸カリウム (Formi™ LHS)の安全性

Safety of potassium diformate (Formi™ LHS) as a feed additive for sows, from ADDCON EUROPE GmbH

EFSA Journal 2020;18(12):6339 16 December 2020

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/6339>

-
- 英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <http://www.food.gov.uk/>

1. 食品サンプリングの原則とアプローチの研究

Research into food sampling policies and approach

3 December 2020

<https://www.food.gov.uk/research/research-projects/research-into-food-sampling-policies-and-approach>

食品及び飼料の事業者が適切で着実に法規制を遵守しているかを検査する地方自治体が、どのようにサンプリングの原則と計画を策定し、実施しているかを調査する研究プロジェクト。調査内容は次の通り。電話インタビューで実施した。

- 地方自治体が、サンプリングの原則をどのように検討し策定しているのか、サンプリングの範囲に影響を与える因子は何か、サンプリング結果をどのように利用しているかを理解する。
- サンプリングの原則の策定、実施、評価に影響を与える主要因子を同定する。
- 満足のいかないサンプルについて地方自治体がどのような是正措置を行っているのか、またそれらの措置が特定された問題への解決に効果的なのかを理解する。

2. プラスチック製食品包装の代替品の販売と安全性分析

Market and safety analysis of alternatives to plastic food packaging

3 December 2020

<https://www.food.gov.uk/research/research-projects/market-and-safety-analysis-of-alternatives-to-plastic-food-packaging>

このプロジェクトはプラスチック製食品包装の代替品の健康と経済への影響を調査するために行われた。背景には、バイオ食品接触物質の市場が成長しており、当該分野の研究の進歩や消費者による代替品への関心、政府によるプラスチックの使用削減へのイニシアチブが、その成長に拍車を掛けている。調査は、2015年以降の学術文献及び灰色文献（通常の出版物ルートにのらず入手が難しい資料）の解析と、専門家へのインタビューにより実施した。

FSA が不安のない持続可能な食品包装への安全な移行ができるようにするために、報告書では次のことを勧告している。

- 英国の食品サプライチェーンを監視する政府機関間の統合的アプローチを強化する
- 公的部門、民間部門、学術部門の間で透明性を保ち知識を共有する
- プラスチック代替品について、明確で根拠に基づく規制を策定する
- 消費者教育に参加する

3. 更新情報（EU 離脱に関連して）

基本的に EU の関連規則の要件を維持する方針としている。

- 食品包装及び表示

Packaging and labelling

31 December 2020

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/packaging-and-labelling>

食品及び飲料品の包装の表示及び法的要件に関する情報。

ハチミツにはこれまで「EU ハチミツの混合」、「非 EU ハチミツの混合」、「EU と非 EU ハチミツの混合」という表示がされていたが、UK の EU 離脱を踏まえた書き方の変更が必要になる（例：全ての原産国名を記載する、「1 ヶ国以上のハチミツの混合」と記載する）。

● 食品事故、製品回収

Food incidents, product withdrawals and recalls

31 December 2020

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/food-incidents-product-withdrawals-and-recalls>

安全でない食品の回収方法を含めた食品事故の報告、対応及び予防に関する情報。

● 距離をとった販売、メール注文及び宅配

Distance selling, mail order and delivery

31 December 2020

<https://www.food.gov.uk/business-guidance/distance-selling-mail-order-and-delivery>

食品をオンラインで販売する場合、持ち帰りあるいは宅配の食品事業に関する情報。

● 食品安全と衛生－賞味及び消費期限

Food safety and hygiene – Best before and use by dates

24 December 2020

<https://www.food.gov.uk/safety-hygiene/best-before-and-use-by-dates>

食品表示の「賞味期限」及び「消費期限」を理解し、それぞれの取り扱いに関する情報。

● 食品安全と衛生－冷蔵

Food safety and hygiene – Chilling

24 December 2020

<https://www.food.gov.uk/safety-hygiene/chilling>

食品を安全に冷蔵、冷凍及び解凍する方法に関する情報。

4. ウェールズの食品法実施規範、食品法実施ガイダンス及び実施体系のレビュー

Review of the Food Law Code of Practice, Food Law Practice Guidance and implementation of the Competency Framework – Wales

18 December 2020

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/consultations/review-of-the-food-law-code-of-practice-food-law-practice-guidance-and-implementation-of-the-competency-framework-wales>

食品法実行規範(the Code)、食品法実施ガイダンス(the Practice Guidance)、FSA の食品や飼料の公的管理やその他の活動の効果的な伝達のための知識や技術の実施 (Competency

Framework) の改訂に関する提案の意見募集。2021 年 3 月 25 日まで。

5. リコール情報

- Meng Fu recalls several meat ball products because the products do not meet food safety requirements

3 December 2020

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-58-2020>

Meng Fu S.H.L は製品製造に使用した肉が食品安全要件を満たしていないため、ミートボール製品を一部リコール措置。

- Lactalis Nestlé Chilled Dairy UK recalls Nescafé Shakissimo Espresso Latte because of contamination with cleaning solution

4 December 2020

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-59-2020>

Lactalis Nestlé Chilled Dairy UK は過酸化水素を含む洗浄溶液残留のため Nescafé Shakissimo Espresso Latte190ml をリコール措置。

-
- FS スコットランド (FSS : Food Standards Scotland)

<http://www.foodstandards.gov.scot/>

1. FSS はスコットランドの食事摂取に関する報告書を発表

Food Standards Scotland publishes report on dietary intakes in Scotland

17 December 2020

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/food-standards-scotland-publishes-report-on-dietary-intakes-in-scotland>

FSS はスコットランドの食生活について報告書を発表した。代表サンプルとしてスコットランド在住の 1053 名から、オンラインツールを使用して食事摂取データを集め、スコットランドの食事目標 (SDG) と比較した。報告書には、飽和脂肪や非乳由来の糖類摂取、果実・野菜及び繊維の摂取、総脂肪摂取に関する報告が含まれる。結果によると、スコットランド人は、飽和脂肪と非乳由来の糖類の摂取を減らし、果実・野菜及び繊維の摂取を増やす必要がある。

-
- 英国環境・食料・農村地域省 (DEFRA : Department for Environment, Food and Rural

Affairs) <http://www.defra.gov.uk/>

1. ガイダンス

● 複合食品の輸出又は移動について

Export or move composite food products

31 December 2020

<https://www.gov.uk/guidance/export-composite-food-products-to-the-eu-from-1-january-2021>

複合食品をグレート・ブリテンから EU や北アイルランドに輸出又は移動させる際は、関連する EU 基準に従い、衛生証明書も必要となる。

複合食品とは、1) 動物由来の加工製品 (POAO)、2) 主原料として使用される植物性製品で香付けや加工のために添加されたわけではないもの、である。例として、ポークパイ、ペペロンチーニピザ、チキンブリトーなど。

● 生きた動物、動物製品及び動物由来でない高リスク食品と飼料の輸出又は移動について

Importing or moving live animals, animal products and high risk food and feed not of animal origin

31 December 2020

<https://www.gov.uk/guidance/importing-or-moving-live-animals-animal-products-and-high-risk-food-and-feed-not-of-animal-origin>

生きた動物、動物製品及び動物由来でない高リスク食品や飼料を EU や北アイルランドに輸出又は移動させる際の確認事項、必要書類、当局への通知方法に関するガイダンス。

● 生きた動物、動物製品及び動物由来でない高リスク食品と飼料を非 EU 加盟国からグレート・ブリテンへの輸入について

Importing live animals, animal products and high risk food and feed not of animal origin from non-EU countries to Great Britain

31 December 2020

<https://www.gov.uk/guidance/importing-live-animals-or-animal-products-from-non-eu-countries>

輸入が可能な相手国、ライセンス取得、国境検査に関するガイダンス。

● 英国保健省 (DHSC : Department of Health & Social Care)

<https://www.gov.uk/government/organisations/department-of-health-and-social-care>

1. 脂肪、砂糖、塩の多い (HFSS) 製品の広報宣伝制限：執行

Restricting promotions of products high in fat, sugar and salt: enforcement

Published 28 December 2020

<https://www.gov.uk/government/consultations/restricting-promotions-of-products-high-in-fat-sugar-and-salt-enforcement>

事業者と執行団体に、HFSS 製品の販促制限執行のための最良の方法について 2021 年 2 月 22 日まで意見を募集する。

脂肪、砂糖、塩の多い食品と飲料の広報宣伝制限について

Restricting promotions of food and drink that is high in fat, sugar and salt

Last updated 28 December 2020

<https://www.gov.uk/government/consultations/restricting-promotions-of-food-and-drink-that-is-high-in-fat-sugar-and-salt>

(2019 年に行った以下の意見募集の結果を受けて)

- ・ HFSS 製品の広報を自主的に抑制する方針は効果が無く、規制が必要だと判断された。
- ・ 意見募集の結果、807 の意見が寄せられ全体として広告制限を支持していた。
- ・ 寄せられた意見を検討した結果、従業員 50 人未満の事業者を対象外にする、HFSS の判定には 2004/05 Nutrient Profiling Model (NPM) を使う、イースター等季節のイベントは例外にしない、等判断されている。

2. グレート・ブリテン栄養及び健康強調表示 (NHC) 登録一覧

Great Britain nutrition and health claims (NHC) register

Published 31 December 2020

<https://www.gov.uk/government/publications/great-britain-nutrition-and-health-claims-nhc-register>

EU 離脱後にグレート・ブリテンで使用可能な栄養及び健康強調表示について。2021 年 1 月 1 日以降の変更点については下記ガイダンスを参照のこと。

* Guidance : Nutrition-related labelling, composition and standards from 1 January 2021

<https://www.gov.uk/government/publications/nutrition-related-labelling-composition-and-standards-from-1-january-2021/nutrition-related-labelling-composition-and-standards-from-1-january-2021>

-
- 英国広告基準庁 (UK ASA: Advertising Standards Authority)

<http://www.asa.org.uk/>

1. ASA 裁定

- ASA Ruling on Not Guilty Food Co Ltd t/a The Skinny Food Co

23 December 2020

<https://www.asa.org.uk/rulings/not-guilty-food-co-ltd-a20-1076361-not-guilty-food-co-ltd.html>

ウェブサイトのカスタマーレビューに投稿されたネガティブな意見を表示しないのは誤解を招くものであると判定されている（星 5 つのレビューしかないので平均が星 5 つ）。

- ASA Ruling on Easylife Group Ltd t/a Easylife Group, Positive Health

23 December 2020

<https://www.asa.org.uk/rulings/easylife-group-ltd-a20-1070932-easylife-group-ltd.html>

減量用パッチ Zaeta Slim Patch の宣伝小冊子の内容に根拠がない。

（貼るだけで痩せる、100%成功、等）

2. 助言

- 食品：機能的食品

Food: Functional foods

23 Dec 2020

<https://www.asa.org.uk/advice-online/food-functional-foods.html>

英国の EU 離脱後に、発効中の全ての EU 法がその後廃止されない限り効力を維持することに注意すること。移行期間終了後に食品の栄養及び健康強調表示に関して規制の改定が行われる見込みで、それに従って広告基準も更新される予定である。

* 声明：CAP and BCAP Code rules after Brexit transition period

<https://www.asa.org.uk/news/cap-and-bcap-code-rules-after-brexit-transition-period.html>

- 体重管理：アトキンスダイエット

Weight control: Atkins diet

21 Dec 2020

<https://www.asa.org.uk/advice-online/weight-control-atkins-diet.html>

アトキンスダイエットは、少なくとも 2 週間の間は炭水化物の摂取量を一日 20 g に制限し、卵、牛肉、オリーブ油、バターなどのタンパク質と脂肪の多い食品は食べ続けることで減量しようというアプローチである。

この主張の何が問題なのか？アトキンスダイエットに取り組んだ人々が減量するかもしれないが、それはカロリー摂取量が減ったことによるものと考えられる。カロリー摂取量に関

係なく特定の炭水化物の制限だけで体重が減るといった宣伝は、根拠がないと判断されるだろう。アトキンスダイエットについて減量を主張するのであれば、しっかりとした臨床的根拠によって支持されなければならない。

●オランダ RIVM（国立公衆衛生環境研究所：National Institute for Public Health and the Environment）

<http://www.rivm.nl/en/>

1. CSOIL 2020：汚染土壌を介したヒト健康リスク評価のための暴露モデル

CSOIL 2020: Exposure model for human health risk assessment through contaminated soil. Technical description

16-12-2020

<https://www.rivm.nl/publicaties/csoil-2020-exposure-model-for-human-health-risk-assessment-through-contaminated-soil>

家庭菜園で育てた野菜を食べたりガーデニング中に吸入したりすることを含む、ヒトの土壌中の汚染物質への生涯暴露計算ツール。1995年に開発されたCSOILモデルを最新の知見を取り入れて更新した。

●アイルランド食品安全局（FSAI：Food Safety Authority of Ireland）

<http://www.fsai.ie/index.asp>

1. リコール情報

● Recall of Certain Batches of Linwoods Milled Flax, Sunflower, Pumpkin and Sesame Seeds and Goji Berries due to the Presence of the Unauthorised Pesticide Ethylene Oxide

Friday, 18 December 2020

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/Linwoods.html

製品に使用されているゴマ種子に未承認の農薬エチレンオキシドが検出されたため、英国産 Linwoods Milled Flax, Sunflower, Pumpkin and Sesame Seeds and Goji Berries をリコール措置。製品写真あり。

● Recall of a Batch of Biona Organic Tahini White due to the Presence of the Unauthorised Pesticide Ethylene Oxide in the Sesame Seeds

Thursday, 17 December 2020

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/Biona_Tahini.html

製品に使用されているゴマ種子に未承認の農薬エチレンオキシドが検出されたため、オランダ産 Biona Organic Tahini White をリコール措置。製品写真あり。

- Withdrawal of a Batch of Dried Figs due to Aflatoxin above the legal limit

Friday, 1 January 2021

<https://www.fsai.ie/driedfigs.html>

スペイン産乾燥イチジクのアフラトキシン濃度が基準値超過のため撤収措置。製品写真あり。

- Recall of a Batch of East End Ginger Powder due to Elevated Level of PAH4

Thursday, 24 December 2020

https://www.fsai.ie/news_centre/food_alerts/east_end_ginger.html

PAH4（多環芳香族炭化水素 4 種）が高濃度のため East End Ginger Powder をリコール措置。製品写真あり。

-
- 米国食品医薬品局（FDA : Food and Drug Administration）<http://www.fda.gov/>,

1. FDA はアレルギー未表示によるリコールを繰り返しているホールフーズ・マーケットに警告

FDA Warns Whole Foods Market After Repeated Food Recalls for Undeclared Allergens
December 22, 2020

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-warns-whole-foods-market-after-repeated-food-recalls-undeclared-allergens>

昨年、最終製品のラベルに主要食物アレルギーが記載されていなかったことにより、ホールフーズ・マーケットが 30 製品以上をリコールした。FDA は、それ以前にも同様に当該企業がアレルギー未表示のために多くのリコールを実施していることを認識している。これらの製品には、店舗のデリやベーカリー部門においてホールフーズのブランド名で販売された食品を含む。今回の警告は、表示されていないアレルギーを含む不正表示製品の「受入」と「提供」を行った小売店に向けて発した初めての例である。

アレルギー未表示は、少なくとも直近 3 年間におけるクラス I 食品リコールの原因のトップである。食品事業者は、消費者が深刻で命にかかわる可能性のある不正確な表示の食品を手にすることがないように最善を尽くすことができる、そして最善を尽くさなければならない。また製造業者も、製造工程においてアレルギーの非意図的な添加が起らないよう

な管理体制を保証すべきである。

2020年にFDAは、アレルギー未表示の食品の製造や流通に関係した企業に向けて8件の警告文書を発送した。

2. FDAはある種の糖の栄養表示に関する情報を募集しアルロースの最終ガイダンスを発表

FDA Seeks Input on Nutrition Labeling for Certain Sugars and Issues Final Guidance on Allulose

December 17, 2020

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-seeks-input-nutrition-labeling-certain-sugars-and-issues-final-guidance-allulose>

FDAは、従来の糖類とは代謝が異なるある種の糖類について、栄養及びサプリメント成分表示に係わる情報の意見募集期間を2021年2月16日まで延長する。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 22/2020（2020.10.28）

【FDA】FDAはある種の糖の栄養表示に関する情報を募集しアルロースの最終ガイダンスを発表

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2020/foodinfo202022c.pdf>

3. FDAはフレンチドレッシングの同定基準取り下げを提案

FDA Proposes to Revoke the Standard of Identity for French Dressing

December 18, 2020

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-proposes-revoke-standard-identity-french-dressing>

FDAは、フレンチドレッシングを同定する定義と基準の取り下げを提案している。製品が消費者の期待に沿うことを確実にするための基準はもはや必要なさそうであり、より健康的な食品を製造するという技術革新の自由度が限定されている可能性があるとして結論している。意見を90日間募集する。栄養革新戦略（NIS）の一環で既存の基準を見直している。

4. FDAは食料生産動物用の抗菌剤の販売又は流通に関する年次概要報告書2019を発表

FDA Releases Annual Summary Report on Antimicrobials Sold or Distributed in 2019 for Use in Food-Producing Animals

<https://www.fda.gov/animal-veterinary/cvm-updates/fda-releases-annual-summary-report-antimicrobials-sold-or-distributed-2019-use-food-producing>

FDAの動物用医薬品センターは2019年の市販流通される食料生産動物用の抗菌剤耐性に関する年間サマリー報告を発表する。食料生産動物に使用される認可された抗菌剤耐性の国内販売及び流通は、2018年から2019年に間に3%の上昇を示した。ただし、年間の販売がピークだった2015年と比較すると36%減少した。

(販売又は流通が多い抗菌剤の種類傾向は 2018 年の年次報告とほぼ同じ：下記参照)

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 26/ 2019（2019. 12. 25）

【FDA】FDA は食料生産動物用の抗菌剤の販売又は流通に関する年次概要報告書 2018 を発表

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201926c.pdf>

5. トランプ政権は食品ロスと食品廃棄削減の取り組みの継続を先導する

Trump Administration Sets the Pace for Food Loss and Waste Reduction Efforts to Continue

December 17, 2020

<https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/trump-administration-sets-pace-food-loss-and-waste-reduction-efforts-continue>

FDA と EPA 及び USDA は食品廃棄を減らすための共同公式合意の更新を発表した。食品ロスと食品廃棄を削減することの影響と重要性に関して、国民の教養を向上させるために協力関係とコミュニケーションを改善することを確認した。食品ロスと食品廃棄は、食料安全保障、経済、コミュニティ、環境にネガティブな影響を与える。

本日の更新された 3 年間合意では、引き続き、2030 年までに食品ロスと食品廃棄を 50% 削減するという国家目標に向けて効果的なパートナーシップを築き、ともに取り組んでいく。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 8/ 2019（2019. 04. 17）

【FDA】USDA、EPA、FDA は食品廃棄を減らす戦略を発表

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2019/foodinfo201908c.pdf>

6. FDA は有害な表示されない成分の可能性があるので Green Gorilla Root Juice を避けるよう消費者に助言

FDA Advises Consumers to Avoid Green Gorilla Root Juice Due to a Potentially Harmful Undeclared Ingredient

December 18, 2020

<https://www.fda.gov/food/alerts-advisories-safety-information/fda-advises-consumers-avoid-green-gorilla-root-juice-due-potentially-harmful-undeclared-ingredient>

Green Gorilla Root Juice, LLC が販売する飲料品「Green Gorilla Root Juice」にはヨヒンビンが含まれている。

7. FDA は違法に CBD 製品を販売する企業に警告する

FDA Warns Companies Illegally Selling CBD Products

December 22, 2020

<https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/fda-warns-companies-illegally-s>

[elling-cbd-products](#)

FDA は本日、連邦食品医薬品化粧品法（FD&C Act）に違反する方法でカンナビジオール（CBD）含有製品を販売している下記企業に 5 つの警告文書を発した。

警告対象の CBD 製品は、鼻、眼、吸入などを介して投与するものに加えて、食品に CBD を添加した製品やダイエタリーサプリメントとしての販売が認められていない製品もある。5 つの警告文書のうち 2 つはペット向けに違法販売された CBD 製品である。

- ・ Bee Delightful
- ・ G&L Wellness (C Better Daily)
- ・ New Leaf Pharmaceuticals
- ・ NextL3vel Services Group, LLC doing business as This Stuff Is Good For You
- ・ Wellness BioSciences

8. FDA は香料又はスパイスとして加えられたゴマの自主的開示に関する企業向けガイダンス案を発表

FDA Issues Draft Guidance for Industry on Voluntary Disclosure of Sesame When Added as Flavoring or Spice

December 23, 2020

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-issues-draft-guidance-industry-voluntary-disclosure-sesame-when-added-flavoring-or-spice>

FDA はアレルギーとしてゴマの自主的開示に関するガイダンス案に関する意見募集期限を 45 日間延長して 2021 年 2 月 25 日までとする。

*参考：食品安全情報（化学物質）No. 24/ 2020（2020. 11. 25）

【FDA】FDA は香料あるいはスパイスとして加えられたゴマの自主的表示に関する事業者向けガイダンス案を発表

<https://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2020/foodinfo202024c.pdf>

（アレルギー表示に関連して）

9. 2022 年会計年度用の VQIP 申請ポータルを開始する

VQIP Application Portal Now Open for FY 2022

December 23, 2020

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/vqip-application-portal-now-open-fy-2022>

FDA は 2021 年 1 月 1 日に、2022 会計年度の任意適格輸入業者計画（VQIP）への申請を開始する。

*Voluntary Qualified Importer Program (VQIP)

<https://www.fda.gov/food/importing-food-products-united-states/voluntary-qualified-importer-program-vqip>

過去3年間に米国への輸入歴があり、標準企業コード（DUNS ナンバー）を取得している輸入業者については、その間に各種違反等をしていないことや施設認証等の要件を満たし適格と判断された場合に、毎年負担金を支払うことで検査やサンプリングが限定されるなど迅速な輸入手続きが行われる対象となる。

10. **Midwestern Pet Foods** はアフラトキシンによる健康リスクのためペットフードを自主的リコール

Midwestern Pet Foods Voluntarily Recalls Pet Food Recall for Aflatoxin Health Risk

December 30, 2020

10/09/2020

<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/midwestern-pet-foods-voluntarily-recalls-pet-food-recall-aflatoxin-health-risk>

Midwestern Pet Foods, Inc.は、検査で許容濃度を超えるアフラトキシンが確認されたため、イヌ及びネコ用製品の自主的リコールを発表する。これまでに Sportmix ブランド製品に関連したイヌの病気や死亡が報告されている。一方、ネコやヒトでの病気は報告されていない。製品パッケージの写真を掲載。

11. 消費者情報：オンラインや店舗で販売される減量、男性用精力剤及びその他の製品は危険かもしれない

Weight Loss, Male Enhancement and Other Products Sold Online or in Stores May Be Dangerous

12/18/2020

<https://www.fda.gov/consumers/consumer-updates/weight-loss-male-enhancement-and-other-products-sold-online-or-stores-may-be-dangerous>

FDA は減量、精力剤製品、ダイエットリーサプリメントの購入、使用に対し注意を呼び掛けている。

FDA は最近、Amazon や eBay で見つけた減量製品と男性用精力剤の約 50 製品について検査した。Amazon から購入した 26 製品全てと、eBay から購入した 25 製品中 20 製品が、表示されていない薬効成分を含んでいた。それらは、シルデナフィル、タダラフィル、バルデナフィル、シブトラミン、デスマチルシブトラミン、フェノールフタレイン、及び又はフルオキセチンであった。これらの隠された成分は、服用しているその他の医薬品と相互作用したり、深刻な副作用につながる可能性がある。

危険な製品をオンラインで販売するのは簡単なことである。FDA は、「汚染された性機能増強製品（Tainted Sexual Enhancement Products）」や「汚染された減量製品（Tainted Weight Loss Products）」などのウェブサイトで公示リストに掲載された、減量用、性機能増強用、ボディビル用、睡眠用、鎮痛用の製品は購入しないよう助言する。処方なく販売され、HIV やがんのような深刻な病気の治療や予防を謳った製品は摂取しないように。

FDA は表示されない成分、危険性のある医薬品成分のため、アマゾン、eBay 及びその他の小売業者により販売される男性用精力剤や減量製品を避けるよう消費者に警告する

FDA Warns Consumers to Avoid Certain Male Enhancement and Weight Loss Products Sold Through Amazon, eBay and Other Retailers Due to Hidden, Potentially Dangerous Drug Ingredients

December 17, 2020

<https://www.fda.gov/news-events/press-announcements/fda-warns-consumers-avoid-certain-male-enhancement-and-weight-loss-products-sold-through-amazon-ebay>

公示：汚染された性機能増強製品及び減量製品

Tainted Sexual Enhancement Products

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/tainted-sexual-enhancement-products>

Tainted Weight Loss Products

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/tainted-weight-loss-products>

表示されていない医薬品を含むとして、各製品を購入、使用しないよう消費者に助言している。各製品の写真も掲載している。

(注：2020年12月17日に公表された件数が多いため、以下、個別のURLは記載せずに製品名のみを記載する。個別のURLは上記リンク先に一覧の記載がある。)

- 1) ＜減量製品＞ シブトラミン、デスメチルシブトラミン、フェノールフタレイン、フルオキセチンのいずれか、又は混合して含まれている

製品名：Super Slim、Lishou Slimming Coffee、Li Da Daidaihua Plus、Imperla Elita Vitaccino、Fruta Planta、Fruta Bio、Burn 7

- 2) ＜性機能増強製品＞ シルデナフィル、タダラフィル、バルデナフィルのいずれか、又は混合して含まれている

製品名：Thumbs Up 7 White 11K、Thumbs Up 7 Red 70K、Thumbs Up 7 Blue 69K、Thumbs Up 7 Black 25K、Shogun-X Platinum 7000、Shogun-X Blacks、Rock Steady 72 Hours、Red Spartan 3000、Premium OrgaZen 7000、Premier Platinum 5000、PremierZen Black 3000、PremierZen Black 5000、Original White Dragon、Krazy Night、Kopi Jantan Tradisional Natural Herbs Coffee、Imperial Platinum 2000、Imperial Gold 2000、Imperial Extreme 2000、Hot Rod、Ginseng Power 5000、Burro en Primavera 60000、69MODE Blue 69、3 KO Gold XT、White Panthe、Triple Wicked Platinum、Super Panther 77k、Royal Honey、PremierZen Gold 7000、PremierZen Platinum 8000、Premier maxxzen Platinum 12000、Poseidon Platinum10000、Poseidon Platinum 3500、Mero Macho、Gold Lion、Blue Panther Extreme 75k、Black Stallion 9000、Triple SupremeZen Plus 3500、Triple

SupremeZen Gold 3500、Triple SupremeZen Extreme 3500

1 2. 警告文書

- Bee Delightful

December 22, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/bee-delightful-610689-12222020>

未承認新規医薬品の問題。製品にカンナビジオール（CBD）を含み、それは安全でない添加物として異物混入と見なされる。

- Wellness BioSciences Rx

December 22, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/wellness-biosciences-rx-609604-12222020>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。CBD 製品を含む。Twitter で違法な宣伝をして製品販売サイトへ誘導。

- NextL3vel Services Group, LLC dba This Stuff Is Good For You

December 22, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/nextl3vel-services-group-llc-dba-stuff-good-you-610446-12222020>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。CBD 製品を含む。Facebook や Instagram で違法な宣伝をして製品販売サイトへ誘導。

- Whole Foods Market

December 16, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/whole-foods-market-610862-12162020>

最終製品の不正表示（アレルゲン）の問題。度重なる食品リコールの問題。

- Campimex, Inc.

December 11, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/campimex-inc-610730-12112020>

外国供給業者検証プログラム（FSVP）違反の問題。

- Riverstone LLC

December 21, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/riverstone-llc-608645-12212020>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。リジンサプリメント

- Sparrow Health & Performance LLC

December 21, 2020

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/sparrow-health-performance-llc-608460-12212020>

未承認新規医薬品、不正表示の問題。ビタミンのサプリメント製品を含む。

● 米国疾病予防管理センター (US CDC : Centers for Disease Control and Prevention)
<http://www.cdc.gov/>

1. 有害藻類ブルームとそれに関連したヒトと動物の病気に関するサーベイランス—ワンヘルス有害藻類ブルームシステム、米国、2016-2018

Surveillance for Harmful Algal Bloom Events and Associated Human and Animal Illnesses — One Health Harmful Algal Bloom System, United States, 2016–2018

MMWR / December 18, 2020 / 69(50);1889–1894

https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/69/wr/mm6950a2.htm?s_cid=mm6950a2_w

有害藻類ブルームは米国全土の淡水、汽水、塩水で発生し、ヒトや動物、生態系、経済に影響を与える可能性がある。18州がワンヘルス有害藻類ブルームシステムを導入し、2016～2018年に421件が報告された。それにはヒトの病気について約389件、動物の病気について少なくとも413件の情報が含まれている。有害藻類ブルームの多くは5～10月(98%)、淡水域(90%)で発生していた。

ヒトの病気の多くは7月に淡水域で発生していた。ヒトの症状で多かったのは、消化器症状、全身症状、皮膚症状、耳鼻咽喉症状、神経症状など。食品由来疾患と判断されたのは22件で、麻痺性貝毒11件、シガテラ5件、その他4件、不明2件だった。

● 米国農務省 (USDA : Department of Agriculture)
<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>

1. Perdue 長官が農業動物バイオテクノロジー規制枠組みを USDA に移す画期的提案を発表

Secretary Perdue Announces Groundbreaking Proposal to Transfer Agricultural Animal Biotechnology Regulatory Framework to USDA

December 21, 2020

<https://www.usda.gov/media/press-releases/2020/12/21/secretary-perdue-announces-groundbreaking-proposal-transfer>

本日、Sonny Perdue 長官が、遺伝子工学を用いて修飾又は製造された農業動物に関する規則の近代化における重要な前進を発表した。

今回 USDA が提案し意見を求める規則策定案事前告示 (Advanced Notice of Proposed Rulemaking : ANPR) は、FDA の既存の動物バイオテクノロジー規則の所管を USDA へ移すというものである。その中で USDA は、農業目的のために遺伝子工学を使用して開発された家畜 (ウシ、ヒツジ、ヤギ、ブタ、ウマ、ラバ、その他のウマ科動物、ナマズ、家禽類) のための科学と技術を前進させつつ、商業化させるための予測可能な道筋を提供する、柔軟かつ前向きで、リスクに応じた、科学に基づく規制的枠組みを構築することを提案している。

USDA が提案する安全性レビューの対象には、分子キャラクタリゼーション、動物衛生 (非感染性、感染性、人獣共通感染症を含む)、有効性 (病気や害虫抵抗性の特定のため)、環境的考察、発現物質の食品安全性評価 (主要成分のアレルゲン性や組成分析を含む)、食品の保存と加工、が含まれている。USDA は、市販前レビューから市販後の食品安全モニタリングまでの端から端に渡る規制的監視を行う。USDA は引き続き FDA と密接に作業を進める。

USDA は、動物衛生保護法 (Animal Health Protection Act : AHPA)、連邦食肉検査法 (Federal Meat Inspection Act : FMIA) 及び家禽製品検査法 (Poultry Products Inspection Act : PPIA) を通じて各部門の権限を行使して規制を公布するだろう。組織の中で、動植物衛生検査局 (APHIS) は遺伝子工学を使用して開発された生物の安全性評価を実施し、食品安全検査局 (FSIS) は開発された動物のと殺や加工に関連したと殺前の食品安全性評価を実施する。

2. USDA は遺伝子工学で開発された収量の多い除草剤耐性トウモロコシ品種の規制解除を発表

USDA Announces Deregulation of Enhanced Yield, Herbicide Tolerant Corn Variety Developed Using Genetic Engineering

Dec 18, 2020

https://www.aphis.usda.gov/aphis/newsroom/stakeholder-info/sa_by_date/sa-2020/sa-12/dereg-herb-corn

USDA の APHIS は、Pioneer Hi-Bred International 社が開発したグルホシネートアンモニウム除草剤耐性トウモロコシ品種 DP202216 について規制を解除する。

3. 食品安全と栄養の革新のための USDA 横断的関係の強化

Growing Connections Across USDA for Innovation in Food Safety and Nutrition

Dec 18, 2020

<https://www.usda.gov/media/blog/2020/12/18/growing-connections-across-usda-innovation-food-safety-and-nutrition>

USDA の部門横断食品安全栄養ワークショップの参加者が倍増した。今後 5 年間の USDA の科学の優先課題を示した USDA 科学青写真が説明された。USDA は「正しいことをして全ての人を食べさせる Do Right and Feed Everyone」 ことに関与する。

*USDA SCIENCE BLUEPRINT

<https://www.usda.gov/sites/default/files/documents/usda-science-blueprint.pdf>

テーマ 1：持続可能な農業強化

テーマ 2：農業の気候適応

テーマ 3：食品と栄養のトランスレーション

テーマ 4：価値を加える革新

テーマ 5：農業科学政策リーダーシップ

科学と農業の動向としては、オープンデータ、ビッグデータ、ゲノム編集、マイクロバイオーム、AI、技術・自動化・リモートセンシング、を挙げている

●オーストラリア TGA (TGA : Therapeutic Goods Administration)

<http://www.tga.health.gov.au/index.htm>

1. ウェビナープレゼン資料：特定のスポーツ用サプリメントが医薬品であるとするセクション 7 宣言について

Webinar presentation: Section 7 Declaration that certain sports supplements are Therapeutic Goods

18 December 2020

<https://www.tga.gov.au/webinar-presentation-section-7-declaration-certain-sports-supplements-are-therapeutic-goods>

2020 年 11 月 25 日に開催したウェビナーの資料を PDF と動画で公開。

2. リコール情報

Infants' Friend oral liquid

23 December 2020

<https://www.tga.gov.au/alert/infants-friend-oral-liquid>

非活性成分として少量のクロロホルムが含まれるため、製品「Infants' Friend oral liquid」をリコール措置。補完医薬品として登録されている、乳児のコリックや夜泣き用製品。

- オーストラリア・ニューサウスウェールズ州食品局 (The NSW Food Authority)
<http://www.foodauthority.nsw.gov.au/>

1. 年次食品検査報告 2019-2020

ANNUAL FOOD TESTING REPORT 2019-2020

DECEMBER 2020

https://www.foodauthority.nsw.gov.au/sites/default/files/2020-12/Annual%20Food%20testing%20report%202019%20-%20EM151220_4.20pm.pdf

検証プログラム

- ・ そのまま喫食可能な製品に関する食品安全スキーム検証プログラム
- ・ 生の家禽類検証プログラム
- ・ キロジュールメニュー表示検証プログラム

調査及びターゲットプロジェクト (一部のみ)

- ・ 植物ベースの代替製品調査：動物製品の代替品 85 製品を調査した結果、微生物学的な懸念はなく、最も一般的な違反は栄養健康表示に係わるものだった。
- ・ 野生採捕貝類の藻類バイオトキシン：2018-19 及び 2019-20 会計年度にそれぞれ採捕した野生の Pipi 貝、ザルガイ、アサリについて貝毒を検査した結果、Pipi 貝から下痢性貝毒のオカダ酸(最大値 0.52 mg/kg オカダ酸当量/ 規制値 0.2 mg/kg オカダ酸当量)、ザルガイから記憶喪失性貝毒のドウモイ酸 (最大値 4.8 mg/kg/ 規制値 20mg/kg) が検出された。

食品安全コンプライアンス

- ・ 監査及び査察の採集サンプル
- ・ 食品由来疾患調査
- ・ 苦情及びコンプライアンスプロジェクト

-
- 香港政府ニュース

<http://www.news.gov.hk/en/index.shtml>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載しています。

1. 包装済みナツメヤシのサンプルに基準値超過の保存料が検出され、食品表示法違反

Prepackaged date sample detected with excessive preservative and in breach of food labelling regulation

Friday, December 18, 2020

https://www.cfs.gov.hk/english/press/20201218_8367.html

食物環境衛生署の食物安全センター（CFS）は本日、中国産包装済みナツメヤシのサンプルに基準値（100 ppm）超過の保存料である二酸化硫黄 180 ppm と、表示されずにソルビン酸 100 ppm が検出されたと発表した。ただし、検出されたソルビン酸の濃度は基準値（1000 ppm）未満であった。

2. 違反情報

- 麺のサンプルが栄養表示規則に違反

Noodle sample not in compliance with nutrition label rules

December 17, 2020 (Thursday)

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201217_8364.html

マレーシア産手作り麺が、総脂肪を 0 g/100 g という表示のところ、1.3 g/100 g が検出された。

- 包装済みナツメヤシが食品医薬品規則に違反

Prepackaged dates sample not in compliance with Food and Drugs (Composition and Labelling) Regulations

Monday, December 21, 2020

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201221_8375.html

包装済み保存用ナツメヤシから食品表示の成分リストにないソルビン酸 170 ppm が検出された。ただし基準値未満である。

- クレソンのサンプルから基準値超過の残留農薬の検出

Excessive pesticide residues found in a Watercress sample

Monday, December 21, 2020

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201221_8374.html

クレソンからクロルピリホス 0.51 ppm が残留基準値（0.1 ppm）超過で検出された。

- 包装済み冷凍菓子が食品医薬品規則に違反

Prepackaged Frozen Confection not in compliance with Food and Drugs (Composition and Labelling) Regulations

Thursday, December 31, 2020

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201231_8404.html

オーストラリア産冷凍菓자에 4 種の着色剤（タートラジン、カルモイシン、ブリリアントブルーFCF、サンセットイエローFCF）のラベル表示なし。

- 包装済み乳児用調製粉乳のサンプルが栄養表示規則違反

Prepackaged Infant formula sample not in compliance with nutrition label rules

December 31, 2020 (Thursday)

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201231_8401.html

英国産の乳児用調製粉乳のサンプルにおいて、ビタミン B12 が 1.3 µg/100 g という表示のところ、検出されたのは 0.8 µg/100 g だった。

● 冷凍哺乳豚のサンプルから基準値超過のエンロフロキサシン

Excessive amount of Enrofloxacin in a frozen suckling pig sample

Tuesday, December 29, 2020

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20201229_8398.html

ベトナム産の冷凍哺乳豚のサンプルからエンロフロキサシンが基準値（100 µg/kg）超過で 470 µg/kg 検出された。

● 韓国食品医薬品安全処（MFDS : Ministry of Food and Drug Safety）

<http://www.mfds.go.kr/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査管理課

- 2020.11.27～2020.12.3

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43171

- 2020.11.20～2020.11.26

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43170

2. 統合食品安全情報網、請願と行政が容易になる

統合食品データ企画課 2020-11-26

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44781

食品医薬品安全処は、11月27日から請願者が直接訪問せずに嘆願を申請でき、許認可情報などを地図に視覚的に示すなど、「統合食品安全情報網」サービスを拡大する。

* 統合食品安全情報網：部・処別で管理する食品安全情報を連携・統合して、部・処間の仕切りなしで共同利用し国民に開放する情報システム

主な内容は、既存の直接訪問又はファックス等を通じて申請していた嘆願について、食品安全全国に電子請願（3種）を追加して、合計112種を訪問しなくても申請することができるようになる。

* 電子請願（3種）：▲試験・検査機関指定書再発行、▲食品添加物の基準及び規格改正の申請、▲食品添加物の一時的な基準及び規格認定（遺伝子組換え微生物由来食品添加物の安

全性審査申請を含む) の申請

また、各省庁・自治体で使用される食品行政統合システムで許認可情報などを地図に視覚的に示す指導サービス、並びに非適合性が高い業者・製品を選定する機能などを拡大して提供する。

3. 泡除去用の食品添加物をうつ病治療剤と偽って販売した訪問販売業者を摘発

危害事犯中央調査団/評価院先端分析センター 2020-12-08

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44834

食品医薬品安全処は、食品添加物をうつ病に良いと謳って飲料品のように飲むように広告を出すとともに、不法密輸入した鎮痛剤を病気治療に効果があると販売して、不当利得を得た訪問販売業者など5人を、「食品衛生法」などの違反疑惑で検察に送検した。

捜査の結果、これらは、今年5月から10月まで泡除去(ケイ素樹脂)や酸度調節(炭酸ナトリウム、炭酸カリウム、塩化カリウム)の目的で申告した食品添加物を、訪問販売業者会員向けに、水に入れて消費する、あるいは原液で直接摂取するように製品表示と説明書に広告を出して約6億ウォン相当の不当利得を得たことが明らかになった。

訪問販売業者販売者Cは、COVID-19による危機的状況であるのに、会員を相手にセミナーを開催して、食品添加物がうつ病や不眠症治療に効能・効果があるように販売した。販売者Dは、食品添加物を高値で売るために、鎮痛剤とステロイド成分が含まれている密輸入インドネシア産の「ハーブカプセル」を、食品添加物と一緒に摂取するように、抱き合わせ販売で消費者を惑わして万能薬のように販売した。

* ハーブカプセル(英文名「TAWON LIAR」):ステロイド(デキサメタゾン)、鎮痛剤(メロキシカム)成分が検出され、海外個人輸入危険食品に指定

4. 修学能力試験マーケティング…「記憶力改善、疲労回復など」虚偽・誇大広告摘発

サイバー調査団 2020-11-26

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44785

食品医薬品安全処は、父兄と受験生の不安心理などを利用して、一般食品に「受験生記憶力改善、疲労回復」などを標榜した虚偽・誇大広告282件を摘発して、その販売ホームページ(サイト)を遮断・削除して、この中で、故意・常習業者50ヶ所に対しては、行政処分など強力制裁する予定である。

今回の点検は、大学修学能力試験を控えて「受験生」、「聡明湯」関連製品が増加すると予想されたため今年11月から1,356の食品販売サイトを対象に、不当広告の有無を確認した。主な摘発内容は、▲健康機能食品と誤認・混同広告(135件)、▲虚偽・誇大広告(75件)、▲医薬品誤認・混同広告(57件)、▲その他消費者詐欺及び疾病予防・治療標榜広告(15件)など。

- ▶ 健康機能食品誤認・混同:「免疫機能強化」、「記憶力改善」、「抗酸化」、「疲労回復」等の健康機能食品として誤認・混同しかねない広告

- ▶ 虚偽・誇大広告：健康機能食品のうち、該当製品が認められていない「持久力」等の機能性内容を標榜して事実と異なった広告
- ▶ 医薬品との誤認・混同：「聡明湯」、「聡明茶」、など漢方薬の処方名及び類似名称を使用して広告
- ▶ 消費者欺瞞：「黒参、レシチン、アルブミン」等の原材料が、免疫力増強、抗酸化及び各種身体疾患等に効能・効果など、消費者を欺く表示・広告

食薬処は、修能マーケティング行為など、オンライン上で、国民の関心が高い製品に対して不当な広告行為等を継続点検して、消費者被害予防に最善を尽くす。一般食品の「記憶力改善」などを標榜する不当な広告に惑わされず、栄養バランスのとれた食品の摂取と規則的な生活習慣が受験生には必要であると呼びかける。

5. 個別認定型原料規制改善・・・業界製品開発支援

食品基準課 2020-12-07

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44829

食品医薬品安全処は、健康機能食品の個別認定型原料に、デンプンや果糖などを混ぜて原料性製品として製造できるようにする、「健康機能食品の基準及び規格」告示改正案を、12月7日行政予告する。

* 原料性製品：機能性原料に、果糖、デンプン、ブドウ糖など、他の原料を混合して作られた製品で、消費者に直接販売することができない製品

これまでの個別認定型原料が「抽出物」と認定された場合は、他の原料を混合したり、「粉末」などの形態に変更する場合、別途認定が必要だったが、今回の改正で、安全性と機能性に影響を与えないデンプンや果糖などを混合して他の形態で製造（例えば、抽出液原料を粉末化）することができるようになり、健康機能食品の製造時に発生する可能性がある、工程、保管、運搬等の問題が多少解消されると期待する。

その他の主な内容として、▲カルシウムとマグネシウムの原料追加、▲EPAとDHA含有油脂の一日摂取量拡大など。

6. 安息香酸、20 ppm まで天然由来と認定

添加物基準課 2020-12-04

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44822

食品医薬品安全処は、安息香酸が食品に微量（0.02 g/kg 以下）に残留している場合、天然由来と認める内容の「食品添加物の基準及び規格」改正案を、12月4日に行政予告した。

* 安息香酸（保存料）：ベリー類などの食品原料にも自然に存在し、発酵などの食品製造過程でも生成することがある成分

今回の改正案は、食品製造時に添加していないにもかかわらず、食品添加物成分が微量検出された場合、営業者が天然由来であることを証明しなければならない負担を解消するために設けた。これに先立ち、7月10日、プロピオン酸について天然由来認定基準（0.10g

/kg 以下) を新設した。

本改正案の主な内容は、▲安息香酸、天然由来認定基準の新設、▲食品用殺菌剤及び器具などの殺菌・消毒剤使用時の注意事項の新設、▲ナイシンなど食品添加物 4 品目の使用範囲拡大、▲5'-リボヌクレオチド二ナトリウムなど 8 品目の成分規格試験法の改善などである。

食品中の安息香酸が、食品添加物としての保存効果を示すことができず、人為的に添加したと判断することが難しいレベルである 0.02 g/kg 以下で検出される場合を、天然由来と認定する基準を新設する。また、最近の COVID-19 の状況下で、食品用殺菌剤や器具などの殺菌・消毒剤が防疫用に誤用される事例があり、適切な使用のために洗浄剤などとの混合使用禁止、空間噴霧禁止などの内容を一般使用基準に入れた。さらに、様々な食品の製造に使用できるように、ナイシン（保存料）など 4 品目の使用範囲を拡大し、5'-リボヌクレオチド二ナトリウムなど 8 品目の成分規格試験法を改善した。

7. ハム、ベーコン製品 HACCP 管理強化される！

畜産物安全課/食品安全認証課 2020-12-01

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44800

食品医薬品安全処は、12 月 1 日から、ハム、ベーコンなど食肉加工業者を対象に畜産物安全管理認証基準（ハサップ、HACCP）の義務的な適用対象が拡大されると発表した。

* 食肉加工業：ハム類、ソーセージ類、ベーコン類、調味（ヤンニョム）肉類などを製造する営業店

適用対象者は、既存売上高（2016 年基準）20 億ウォン以上の業者から、5 億ウォン以上の業者に拡大され、これは全体 2,300 社以上の食肉加工業者中 430 社以上増えた 750 社余（33%）の業者が該当する。全体生産量実績（2019 年基準）に比べ、ハサップ適用製品が 87%から 96%に増え、畜産物の安全管理がより一層細かくなる。

8. 新しい日常、家庭簡便食と健康の動向

食生活栄養安全政策課/栄養機能研究課 2020-12-08

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44833

食品医薬品安全処は、最近、食生活の変化や非対面活動の増加で家庭簡便食の消費が急増しており、家庭簡便食の正しい摂取を誘導しようと、栄養成分の調査結果などを公開する。

* 家庭簡便食生産実績：('17) 2.7 兆ウォン→ ('18) 3 兆ウォン→ ('19) 3.46 兆ウォン

消費者に合理的な商品選択情報を提供するために、大型マート、オンラインショッピングモール、コンビニなどで販売している家庭簡便食合計 6,391 個の製品を対象に、栄養成分の含有量を調査した。

調査の結果、チャーハン、カップ飯、お粥などの平均カロリーは、一日摂取参考量（2,000kcal）の約 20%以下の水準で、一食の食事の代わりには低く、インスタントラーメン

ン、弁当、のり巻き（キムパプ）などは、一日のナトリウム基準値（2,000 mg）の 50%以上と高かった。また、半数以上の中・高生が、コンビニで、のり巻き（キムパプ）とラーメンと炭酸飲料を一度に摂取して、一食摂取だけで一日のナトリウム基準値を超過し、糖類は、一日摂取目安に近接して栄養不均衡が懸念された。

多様な家庭簡便食を賢く摂取するためには、製品包装の栄養成分表示を確認して、ナトリウム・糖類を少しずつ減らして、健康的な食生活習慣が必要である。

9. ピザなどオンライン注文時、栄養成分情報を確認して下さい！

食生活栄養安全政策課 2020-12-04

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44825

食品医薬品安全処は、ピザなど、主に子供嗜好食品を調理・販売する食品接客業者・オンライン（ホームページ、配達アプリなど）について、注文時に栄養成分やアレルギー情報を確認することができることを発表した。

表示義務対象業者は合計 31 社であり、オンラインでカロリー、ナトリウムなどの栄養成分情報と、卵、エビなどのアレルギーを誘発させる可能性のある食品情報を提供している。

* ハンバーガー（5社）、ピザ（17社）、製菓・製パン（8社）、アイスクリーム類（1社）

一方、食薬処は、10月19日から11月13日までに、地方自治体とともに表示義務対象の子供嗜好食品調理・販売業者 10,822 店舗と、オンライン（ホームページ、配達アプリ）指導・点検を行った。その結果、一部、配信アプリの場合に加盟店の栄養成分などの表示情報が反映されるのに一定の時間がかかり情報提供が不十分であったが、直ちに改善措置した。

10. 今年最高の国民関心情報、飲食店生活防疫・アイテム製造報告！

統合食品データ企画課 2020-12-01

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44799

食品医薬品安全処は、今年一年、「食品安全全国」が保有しているコンテンツ検索データを分析して、国民の関心が最も高かったコンテンツ選定結果を発表した。

食品安全全国への今年の訪問者数は11月時点で2,200万人であり、昨年1500万人以上より大幅に増加したが、これはCOVID-19のために、安全な食べ物と健康への関心が高まったためと分析される。

* 食品安全全国：17省庁、26関係行政機関の食品安全情報を連携・統合して、国民に開放するポータルサイトで、2015年6月から構築・運営している

2020年食品安全全国の様々なコンテンツデータ分析の結果、食品安全知識コンテンツのうち関心が高かったのは、消費者では順に、飲食店生活防疫規則遵守情報（3,868件）、過剰摂取注意栄養素（3,422件）、プロバイオティクスファクトチェック（3,818件）、営業者では、品目製造報告（4,276件）、健康機能食品産業動向（3,586件）であった。

食品安全全国の初期画面にある、国民関心データをリアルタイム分析する可視化サービス

と主題別海外重要情報で、翌日に現在の食品安全問題を確認できる。

1 1. 糖尿病患者でも心配せず食べることができる食事製品が出ます

食品基準課/有害物質基準課 2020-11-26

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44786

食品医薬品安全処は、栄養成分含有量に敏感な慢性疾患者が気にせず食事をするようにする、「献立型食事管理食品」の製造基準を、11月26日告示する。

今回の通知は、食薬処の「オーダーメイド型特殊食品分野食品産業活力向上対策」の一環として推進し、最近需要が増加している慢性疾患の方や高齢者向けの製品など市場変化に対応して、栄養成分含有量に対する心配のために、しっかりとした食事をする事ができず、栄養不均衡になる糖尿病や腎臓疾患の患者などのジレンマを解消するために設けられた。

今回の改正告示の主な内容は、▲特殊医療用途食品（メディフード）を独立した食品群に分類、▲ミールキット形態の献立型食事管理食品許可、▲高齢者向け食品の液状製品にも規格新設。特殊医療用途食品を標準型、オーダーメイド型、献立型製品に再分類して、従来の患者用食品は、糖尿病・腎臓病・腸疾患などの疾患別に細分化して、市場変化への迅速な対応と疾患別オーダーメイド型製品管理が容易になるようにした。栄養管理が重要な慢性疾患者が、栄養成分摂取量を気にせず、自宅で手軽に準備して食事できるようにする食品類型（献立型食事管理食品）を新設する。献立型食事管理食品は、臨床栄養学的な根拠に基づき製造された家庭簡便食形態の患者食として、手軽な食事管理が可能になるので、患者の栄養と健康増進に寄与することが期待される。

食薬処は、まず、糖尿病患者と腎臓疾患の患者のための食品基準を新設し、今後、高血圧など他の疾患に拡大していく計画である。また、高齢者向け食品のうち液状食品に対しては、無理なく飲み込むことができるように適切な粘度規格（1500 mPa・s 以上*）も用意した。今回の改正案には、農薬 59 種の残留許容基準 117 件の改正も含まれる。

1 2. 食品安全全国公共情報で人工知能(AI)がメニュー作る

統合食品データ企画課 2020-11-27

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44789

食品医薬品安全処は、国民に開放した公共データ活性化のために、7月29日から10月25日まで、「食品安全全国公共データ活用アイデア・事例公募展」を開催し、6チームを優秀作に選定した。

1 3. 製造段階の卵検査の結果、不適合卵回収・廃棄

畜産物安全課 2020-11-27

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44792

政府は、卵の安全管理のために、産卵鶏農家と市中流通卵に対する指導・点検及び検査

を継続実施している。

産卵鶏農家の生産段階卵検査中、慶尚南道、固城郡、所在農家が生産した卵からピフェントリン*が基準値(0.01 mg/kg)を超えて(0.04 mg/kg)検出されたため、不適合判定された。

* 「ピフェントリン」は、畜舎、外部などの害虫防除用として使用が可能な動物用医薬部外品の成分

この農家が、ピフェントリン（動物用医薬部外品）を害虫防除のために乱用して卵から検出されたと推定される。政府は、農家に保管されていたり、流通している不適合卵を自治体と合同で全量回収廃棄措置し、追跡調査などを通じて流通を遮断している。当該農家には出荷を停止させ、残留違反農家に指定して、6回連続検査などの規制検査と専門防除業者を通じた清掃・洗浄等を実施する一方、不適合の原因調査を行い、違反確認時告発または過料などの制裁措置をした。

* 規制検査：不適合農家の卵は、3回連続検査合格後、2週間後に3回連続検査を実施

政府は、不適合農家の卵を購入した消費者は、販売または購入先に返品するように要請した。

1 4. 海外個人輸入物品に関する国民安全・健康リスク要因を最小化する！

輸入流通安全課 2020-11-26

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44787

政府は、11月26日、総理主催で開催された「第118回の国政懸案点検調整会議」において、国務調整室主管で食薬処・関税庁など関係省庁とともに準備した、海外個人輸入物品流通及び安全管理システムの改善案を審議確定した。

(参加：企財部・教育部・科学技術部・公安部・文教体育部・産業部・福祉部・環境部・雇用部・国土部・中期部長官、公正委員長、国調室長、食薬処長、関税庁・統計庁・山林庁・気象庁長、中小企業オンブズマン、BH政務秘書官、韓国消費者院長)

最近、価格・品質を重視する消費者の認識変化とともに、インターネット利用の拡大などにより、海外直輸入規模が急増している。

* ('16) 19,079億ウォン→('17) 22,436億ウォン→('18) 29,717億ウォン→('19) 36,355億ウォン (22.3%↑)

海外直輸入は、主に自己使用目的であるため、一部の品目（不正乱用医薬品など）を除いて、正規輸入とは異なり安全認証などの輸入要件が免除されるなど簡素化された通関手続きが適用される。そのため、多数の危害物品搬入が懸念されるなど、国民安全・健康リスク要因が増加している。

* 海外直輸入サイトで性機能改善・筋肉強化・ダイエットなどを標榜する製品 1,300個中125個の製品で、食品に使用することができない医薬品成分を検出（食薬処検査、'19年）

特に、COVID-19以降、海外直輸入規模がさらに拡大すると予想されるため、安全性の問題及び消費者被害の可能性も大きくなっている。

* '20年第3四半期の海外直輸入規模は、前年同期比13.8%増(9,581億ウォン)

国務調整室（政府業務評価室）で、食薬処、関税庁など関係省庁が協力して、海外直輸入と関連した国民安全及び健康確保のために、購入・通関・事後管理など海外直輸入全般に対する段階別制度の改善案を用意した。国務調整室は、本日確定した海外個人輸入物品流通及び安全管理システム改善案が21年以内に実施されるよう積極的に奨励して、部省庁別細部推進状況を半期ごとに点検する予定である。

* 段階別制度：消費者の視点から、△情報収集・購入、△通関申告・検査、△通関後流通管理、△消費者被害救済など4段階に区分して分析

本日の国政懸案点検調整会議で確定した段階別主な改善内容は、次の通り。

1) 物品情報収集・購入段階

- ① 海外個人輸入時、消費者が必要な情報を簡単に得ることができる食品情報提供システムを改編する。（食薬処）
- ② 危害物品販売サイト遮断の法的根拠を用意する。（食薬処、産業省）
- ③ 国内通信販売仲介業者の安全管理責任を強化する。（食薬処）
- ④ 国内プラットフォーム入店食品販売海外事業者について、国内法適用を推進する。（食薬処）

2) 通関申告・検査段階

- ① 海外個人輸入物品通関段階での通関審査と検査を強化する。（関税庁、食薬処）
- ② 海外個人輸入累積免税限度用意を検討。（関税庁）
- ③ 電子商取引専用輸入申告書式を用意。（関税庁）

3) 通関後流通管理段階

- ① 海外個人輸入物品購入検査を拡大。（食薬処、産業省など）
- ② 危害物品流通合同監視を強化。（公正委など）

4) 消費者被害救済段階

- ① 食品購入代行業者の責任所在を明確にする。（食薬処）
- ② 消費者被害救済のための国際協力努力を強化。（消費者院）

15. 無申告食品用器具の輸入・販売 16 業者摘発・送致

輸入流通安全課 2020-11-27

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44791

食品医薬品安全処と関税庁仁川本部税関は、食薬処に輸入申告せずに、食品用製氷機、温水器など113,685点を輸入（'13.9月～'20.7月に、時価1,139億ウォン）した16社を「輸入食品安全管理特別法」及び「食品衛生法」違反で摘発した。

16. 残留農薬基準を超過した輸入農産物の回収措置

輸入流通安全課 2020-12-02

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=44806

食品医薬品安全処は、ソウル市が回収・検査した結果、中国産農産物から残留農薬が基準値を超過して検出され、その製品を販売中断し回収措置した。

- ・ サンシュユ製品：トリアゾホスが 0.49 mg/kg（基準値：0.1 mg/kg）、
- ・ クコの実製品：クロルベンズロンが 0.27 mg/kg（基準値：不検出）

※ この農薬は、いくつかの外国では殺虫剤として使用しているが、国内未登録農薬

● その他

ProMED-mail

● 原因不明の病気 インド（第8報）：（アンドラプラデシ）、致死、さらなる調査

Undiagnosed illness - India (08): (AP) fatal, further investigations

2020-12-22

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8039474>

（編集者注：記事は日付順。想定と混乱と重複があり、真実は混乱の中に埋もれているようだ）

[1]Date: 16 Dec 2020 Source: Republic World [edited]

Eluru の人々の病気の原因としてアンドラプラデシ政府は農薬の可能性がまだあると述べている。国立栄養研究所は、トマトとナスから残留農薬を検出しそれが原因の可能性があるといる。インド医科学研究所(AIIMS)は、患者の血液から鉛を、ミルクからニッケルを検出したと報告。国立化学技術研究所によると、水からは重金属や農薬は検出されていない。血液中からエンドスルファンと DD が痕跡程度、一部の血液からは鉛が検出されたが有機リンは検出されていない。

[2]Date: 17 Dec 2020 Source: Business Today [edited]

Eluru 市では合計 612 人が入院し 605 人が退院した。1 人が死亡した。各種研究機関の専門家が残留農薬、有機塩素、鉛、ニッケルなどを検出している。州政府は 21 人の学際的委員会を作って原因を探っている。

[3]Date: 18 Dec 2020 Source: Chemistry World [edited]

アンドラプラデシでの数百人の病気は州の医師や専門家を当惑させている。これまで矛盾する知見が報告され、正確な原因の同定が困難である。

（編集者から：短期間に多数が病気になったことから高濃度の揮発性化合物が存在した可能性もあるが既に検出できなくなっているかもしれない。続報を待つ）

● 原因不明の疾患－インド（第9報）：（テランガーナ）農薬疑い

Undiagnosed illness - India (09): (TG) pesticide susp

2020-12-27

<https://promedmail.org/promed-post/?id=8050618>

Date: 26 Dec 2020 Source: New Indian Express [edited]

(編集注: Eluru の謎の病気の件ではない)

2020年12月25日に Ayodya の Bajana thanda の 20 人が下痢・腹痛後入院した。情報源によるとこの thanda の約 102 人が、過去 3 日間調子が悪く、12月25日に悪化した。村人の中には汚染された水が原因だという人もいる。当局は現地に 4 人の医療チームを派遣した。担当者は村人が農薬を散布した野菜を適切に洗わずに食べていて、それが原因だという。

(編集者から: 農薬名・濃度記載なし、特徴的症状も報告されていない)

EurekaAlert

- 鳥に聞け: 違法ダイエット錠剤 DNP は長期的にはあなたを殺すかもしれない

Listen to the birds: illegal diet pill DNP might kill you on the long run

9-DEC-2020

https://www.eurekaalert.org/pub_releases/2020-12/uot-ltt120920.php

2,4-ジニトロフェノール (DNP) は違法な減量薬だが、インターネットでは販売され、死亡者も報告されている。フランスの CNRS/ストラスブール大学の Stier 博士等のチームがキンカチョウ (鳥) で 4 年以上 DNP 投与した長期試験を行った。急性毒性が出ずに僅かに代謝を増加させる影響を与える量を投与し、一見健康的で特に老化が早まる兆候もなかったが、寿命が 20%短くなった。ヒトでは 15 年に相当する。 *Comparative Biochemistry and Physiology Part C: Toxicology & Pharmacology* に発表された。

- 伝統薬への野生哺乳類の使用

The use of wild mammals in traditional medicine

9-DEC-2020

https://www.eurekaalert.org/pub_releases/2020-12/w-tuo120720.php

出版されている研究の解析から、世界中で 565 種の哺乳類が伝統薬の原材料として使われていることが同定された。特にアジア、アフリカ、ラテンアメリカで。 *Mammal Review* に発表されたこの解析によると、そのうち 155 は絶滅のおそれがある。

- フードシステムのハイテク解決法は意図せぬ帰結になる可能性がある

High-tech fixes for the food system could have unintended consequences

11-DEC-2020

https://www.eurekaalert.org/pub_releases/2020-12/icft-hff121120.php

—我々の失敗しているフードシステムは新しい技術が必要としている;しかし管理できない新たな問題を生まないようにトレードオフを見越すことが必須である—

The Lancet Planetary Health に、新技術がヒトの健康や地球の幸せにとってどの程度必

要なのかを議論した研究結果が報告された。要点は次の通り。

- 有機廃棄物由来タンパク質を家畜飼料に使うことで大豆ミールの需要が減らせる。しかし大豆生産を減らすと、パーム油の需要が増えて森林が減る可能性がある
- 土壌に窒素を補充するために穀物を使うと化学肥料使用を減らせるが、既に食べ過ぎの食品を増やして慢性疾患をさらに増やす可能性がある
- 個別栄養は慢性疾患を減らす可能性があるが、メキシコのアボカドのような健康的とされる食品の需要を増やし、経済的に多くの人には届かない
- 自動化やロボットでの精細農業は食糧の安定化や農薬や水の過剰使用防止の利益があるが、技術の無い労働力の必要性を減らして不安定な小規模農家を脅かし、移民を増やす可能性がある

● 小規模テキサス農家の食品安全実践にギャップを発見

Discovering gaps in food safety practices of small Texas farms

15-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/uoh-dgi121520.php

Journal of Food Protection に発表された 70 の小規模農家の食品安全手順への知識を評価。特に小規模な農家は連邦食品安全ガイドラインに従う義務がなく、食品安全に関するトレーニングを受けたことがない。

● 英国の「警告すべき高い」ビタミン D 欠乏

'Alarmingly high' vitamin D deficiency in the United Kingdom

14-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/uosa-hv121420.php

英国に住むアジア人の 50%以上がビタミン D 欠乏である。*Clinical Nutrition* に発表された英国バイオバンク参加者 440,581 人のデータを解析した研究。多くの高緯度西洋諸国とは異なり、英国ではマーガリンに少量以外に主要食品にビタミン D 添加していない。

● 米国とメキシコから壊滅的な害虫を排除するのにバイテク綿が鍵

Biotech cotton key to eliminating devastating pest from US and Mexico

21-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/uoa-bck121620.php

PNAS に発表された新しい研究によると、遺伝子組換え綿と古典的害虫コントロール戦略の組み合わせで、米国とメキシコの綿栽培地域からワタアカミムシガの幼虫を根絶できた。

● 現在の食糧生産システムは広範な住処の損失を意味する可能性がある

Current food production systems could mean far-reaching habitat loss

21-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/uol-cfp121720.php

Nature Sustainability に公表された報告によると、フードシステムの大幅な変更無しには 2050 年までに数百万平方キロメートルの自然の生息環境が失われる可能性がある。影響を受ける種の多くは絶滅危惧種としてリストアップされていないため、現在保護対象になっていない。生物多様性目標は更新されるべきである。しかし野心的なフードシステム変更で損失が予防できる。サハラ以南のアフリカでの農業収量の増加、北米での健康的食生活への移行、国際的土地利用計画など。

- **調理した肉に発見される炎症化合物が子どもの喘鳴に関連する**

Inflammatory compounds found in cooked meat linked to childhood wheeze

21-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/b-icf121720.php

Thorax に公表された報告。NHANES のデータから食事由来終末糖化産物 (AGES) 摂取量を推定して、年齢、性、人種、収入、肥満などを調整した後、喘鳴の高さと AGES 摂取量の多さが関連する

- **金属暴露が妊娠に影響しうる**

Exposure to metals can impact pregnancy

21-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/ru-etm121720.php

Environment International に発表された Rutgers 大学の研究。プエルトリコの汚染の脅威探索のための試験 (PROTECT) 研究に参加した 815 人の血液と尿の解析。ニッケル、ヒ素、コバルト、鉛などへの暴露が妊娠中のホルモン濃度に影響する可能性がある。

- **変異原性物質がヒト健康に与える広範な影響**

The far-reaching effects of mutagens on human health

21-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/asu-tfe122120.php

PNAS に発表された、アリゾナ州立大学 Michael Lynch 教授らによる変異原性物質の転写への影響についての研究。

- **ビタミンの高用量で高齢者の転倒リスクに有害である可能性を研究が発見**

Study finds possible harm to seniors' fall risks with higher doses of vitamin

8-DEC-2020

https://www.eurekalert.org/pub_releases/2020-12/jhm-sfp120820.php

Annals of Internal Medicine に発表された研究で、1 日 1000IU (25 マイクログラム相当)

以上の用量は、転倒予防について 200IU/日より良くはないことを示した。米国の 70 才以上の高齢者での試験。

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室